



岩国医療センターだより

2026年 9・10月号 VOL.167

ご自由にお持ちください。



術者の操作台
(サージョンコンソール)

高精細 3D 画像モニター
(ビジョンカート)

多関節鉗子のついた
ロボット本体
(パシエントカート)

当院の手術支援ロボット「ダヴィンチ xi」

もぐり

② 特集: 低侵襲手術センター「外科」

④ 【看護部だより】 消化器・泌尿器センター 7階東病棟

⑤ 【緩和ケアだより】 最期の医療だけではない緩和ケア ～病気と診断されたその日から、 あなたを支える医療～

⑥ コラム 「美味しいカレーは、好きですか？」

⑦ インフォメーション 新任医師の紹介、第11回特定認定看護師の紹介、 学校祭のお知らせ、永年勤続表彰、七夕飾り、 院内コンサート開催、ほっとサロン虹のご案内

低侵襲手術センター「外科」

記：外科医長 小川 俊博



低侵襲手術センターでは、ロボット支援手術を中心とした低侵襲外科治療を提供しています。

ロボット支援手術は、術者の手の動きを忠実に再現する多関節鉗子と高精細 3D 画像を活用することで、従来の腹腔鏡手術では困難であった狭い空間での精密な操作を可能にします(図 1 参照)。その特長を生かし、重要な血管や神経を丁寧に温存しながら、根治性と安全性を両立した質の高い手術を目指しています。

当科は山口県東部で唯一の食道外科専門医準認定施設、日本胃癌学会認定施設、日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設です。胃・大腸の悪性腫瘍を中心にロボット支援手術を積極的に導入するとともに、胸腔鏡手術、腹腔鏡手術を組み合わせ、それぞれの患者さんに最適な術式を選択しています。常に進化する医療技術を積極的に取り入れながら、安全性と治療効果を第一に考え、一人ひとりに最適な治療法をご提案します。地域の皆さまに安心して手術を受けていただけるよう、質の高い低侵襲医療を提供してまいります。

【図 1】手術支援ロボット「Da Vinci Xi」



【当院のロボット支援手術】



担当医師



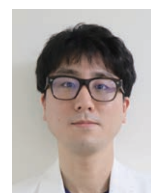
堀 直人(大腸)

内視鏡技術認定取得医(大腸)
ロボット支援手術
プロクター(大腸)
日本ロボット外科学会専門医
(Robo Doc certificate)
(国内 B 級)



小川 俊博
(食道・胃・ヘルニア)

内視鏡技術認定
取得医(胃)
食道科認定医



大倉 友博
(肝胆膵・ヘルニア)

消化器外科専門医

診療内容

食道外科

食道がんに対する胸腔鏡下食道切除術を行っています。拡大視野を生かした精緻なリンパ節郭清に加え、術中神経モニタリングやICG 蛍光法を導入し、術後合併症の低減にも取り組んでいます。



胃外科

胃がんに対する腹腔鏡手術およびロボット支援胃切除術を行っています。病状や進行度に応じて最適な術式を選択し、ロボットの特性を生かした精密な郭清と再建により、安全性と低侵襲性を両立した治療を提供しています。



大腸外科

結腸がん・直腸がんに対する腹腔鏡手術およびロボット支援手術を行っています。特に直腸がんでは、骨盤深部での繊細な操作性を生かし、神経温存や肛門機能温存を重視した手術に取り組んでいます。



肝胆膵外科

肝臓・胆道・膵臓疾患に対して腹腔鏡手術を積極的に行っています。高度な技術を要する領域においても、患者さんの身体への負担軽減と安全性を重視し、適応を十分に検討した上で低侵襲手術を提供しています。



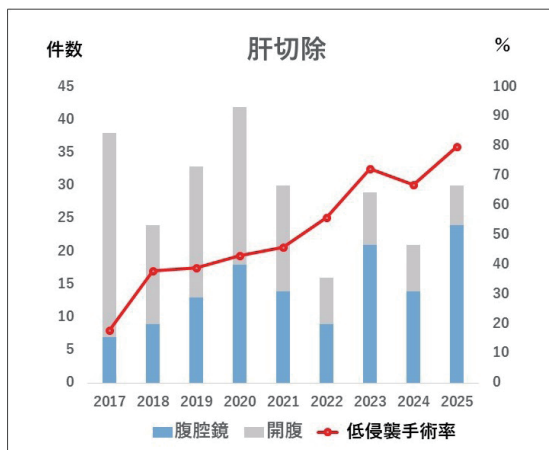
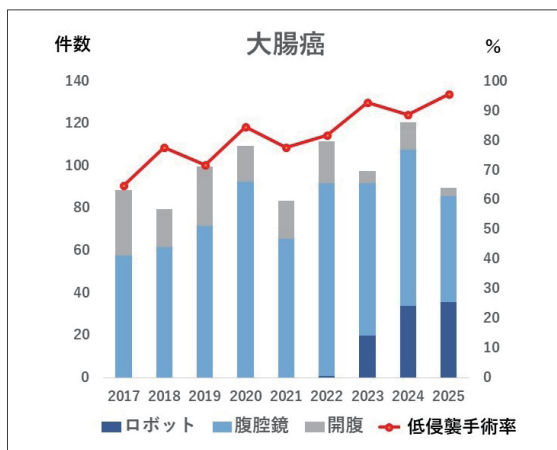
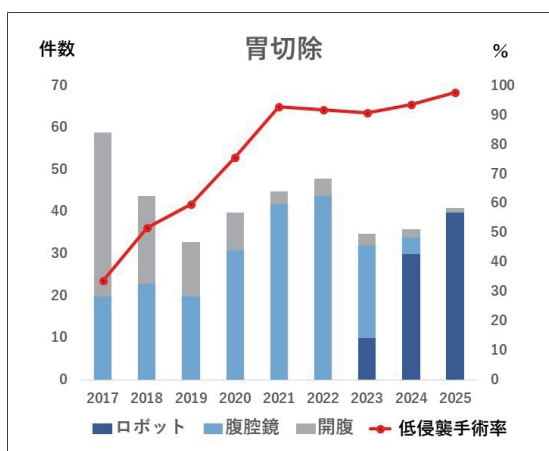
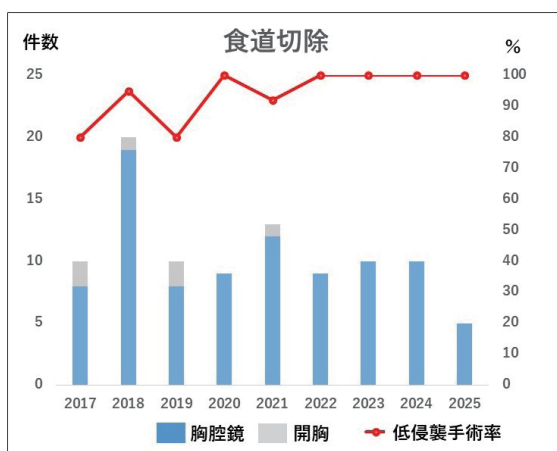
ヘルニア

鼠径ヘルニアに対して腹腔鏡手術（TAPP 法・TEP 法）およびロボット支援ヘルニア修復術を行っています。再発率の低下・早期社会復帰を目指して低侵襲手術に取り組んでいます。



今月号表紙は、当院の手術支援ロボット「ダヴィンチ xi」です。

症例数





消化器・泌尿器センター 7階東病棟

7階東病棟 看護師長

橋本 光正



7階東病棟は、消化器外科・乳腺外科・泌尿器科の混合病棟です。主に消化器がんや乳がん、泌尿器がんに対する手術療法や化学療法を受けられる患者さんが入院されています。

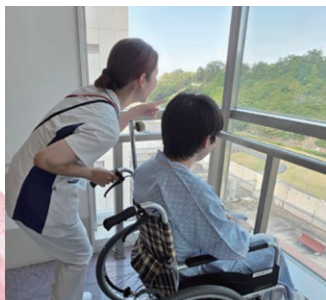
当院の消化器外科および泌尿器科では、最近では低侵襲手術が主流となっています。消化器外科の手術では、鼠径ヘルニアや胆のう摘出術などの腹腔鏡手術をはじめ、胃がんや直腸がんに対しては腹腔鏡手術に加えロボット支援下手術を実施しています。低侵襲手術では通常の開腹手術に比べ入院期間が短く、例えば胃がんの開腹手術では2週間程度の入院が必要ですが、腹腔鏡手術やロボット支援下手術では10日程度になります。



泌尿器科の手術においても、病状に応じて腎臓や膀胱腫瘍、また前立腺腫瘍に対して腹腔鏡手術やロボット支援下手術を実施しています。前立腺腫瘍のロボット支援下手術では患者さんは10日程度で退院されます。

腹腔鏡手術やロボット支援下手術は傷が小さく、術後の痛みが少ないため、翌日から歩行が可能になります。術後の経過がとても早いですが、私たちは、患者さんが順調に回復できるように、術後の回復に合わせて痛みや出血、感染などの合併症を注意深く観察するとともに、1日でも早く社会生活に戻れるようにスタッフ全員で患者さんを支援しています。

7階東病棟では手術療法だけでなく、化学療法を受けられる患者さんも多く入院されます。大腸がんの化学療法は比較的効果が期待できるとされており、手術療法と併用して化学療法を受けられる患者さん



療法は比較的効果が期待できるとされており、手術療法と併用して化学療法を受けられる患者さん

もおられます。また膀胱がんでは腫瘍を縮小させるために術前より化学療法を行い、手術を受けられる患者さんも多くおられます。

7階東病棟では患者さんに安全に化学療法を受けて頂けるように、専門的スキルを身につけた院内のがん化学療法認定看護師を中心に患者さんの看護にあたっています。化学療法では時に吐き気や食欲低下、手足のしびれなどの副作用が現れることがあります。症状を早期に把握し、多職種と連携して苦痛の軽減に努めるとともに、「治療が続けられるだろうか」「仕事や家庭生活はどうなるだろう」といった患者さんの不安にも耳を傾け、安心して治療が継続できるように一人ひとりの患者さんの思いに寄り添った看護を実践しています。

7階東病棟では、「患者さんをチームで支えること」を大切にしています。医師、看護師をはじめ、多職種が日々情報を共有し、それぞれの専門性を発揮しながら、患者さんにとって最善の医療と看護が提供できるように取り組んでいます。

これからも患者さん一人ひとりがその人らしい生活を送れるよう、患者さんにご家族に寄り添いながら、1日でも早く回復できるように日々患者さんを支えていきます。





最期の医療だけではない緩和ケア

～病気と診断されたその日から、
あなたを支える医療～



緩和ケア認定看護師
新井 美穂

「緩和ケア」に対する誤解はありませんか？

「緩和ケア」という言葉を聞いたとき、皆さんはどのようなイメージを持たれるでしょうか。「治療の手立てがなくなった後に受けるもの」「人生の最期を迎えるホスピスのような場所で行われるもの」といった、いわゆる終末期の医療を思い浮かべる方が、まだ少なくないかもしれません。しかし、現在の緩和ケアは大きく進化しています。決して「最期の医療」ではなく、病気と診断されたその日から、病気を治すための治療と並行して、いつでも受けることができるサポートです。

緩和ケアの目的は「自分らしく生きる」こと

緩和ケアの最大の目的は、患者さんとそのご家族の「つらさ」を和らげ、「自分らしく生きる」、つまり病気があってもその人らしい日常生活を安心して送れるように支えることです。

大きな病気に直面したとき、人は体が痛むだけでなく、さまざまな苦痛を同時に抱え込みます。

- 体のつらさ：痛み、息苦しさ、全身のだるさ、吐き気、不眠など
- 心のつらさ：不安、気分の落ち込み、孤独感など
- 生活のつらさ：これからの生活や仕事への心配など

つらい状態が続くと、考えたり、眠ったりすることも大変になります。食欲や気力がおち、これまで通りの生活を送ることが難しくなることもあります。

岩国医療センターでは、様々なつらさに対応するため、専門知識を持った多職種からなる「緩和ケアチーム」が活動しています。チームには、医師や看護師をはじめ、薬剤師、心理療法士、栄養士、理学療法士、そして医療ソーシャルワーカーが参加しています。

それぞれの専門性を活かして一丸となり、主治医や担当看護師と連携しながら、患者さんにご家族を多角的にサポートします。



ひとりで抱え込まず、前向きな選択として まずはご相談ください

緩和ケアを受けることは、決して病気を治すための治療を諦めることではありません。むしろ、つらさを我慢せずに早く取り除くことで、より良い状態で治療を続けるための「前向きな選択」です。「こんな軽い症状で相談してもいいのかな」とためらう必要はありません。

ご自身や大切なご家族が病気によるつらさを感じたときは、いつでも主治医や看護師、または相談窓口である地域連携室・がん相談支援センターへお気軽にお声がけください。



美味しいカレーは、好きですか？



安光 正治



“カレー”... どのカレーがお好きでしょう？ 意外と自分の家かもしれません。ですが店のカレーも色々あって美味しいものです。ちょっと遠いところもありますが気になる店をいくつか紹介させていただきます。

昔、「インド人もびっくり」というカレーのCMがありました。カレーと言えばやはりインドを最初に思い浮かべます。岩国駅近くに2店舗 G があります。カレーもナンも種類が多く紹介しきれません。最も多めのセットがこのマハラジャターリーセット①ですが、結構なボリュームですのでご注意ください。



インドと言っても広い国です。南インドのカレーをできるだけ忠実に提供してくれるのが光市塩田に広島から移転（実家のお寺に戻られた）してきた K。ミールス②と呼ぶそうです。ライスは細長いバスマティライス。指でつまんで食べるのがインド流ですがスプーンもついてきますのでご安心を。

インドの南東にはスリランカ。国道 186 号を吉和に向かって北に走り、道の駅スパ羅漢の少し手前にスリランカカレーの店 L があります。ドライカレー③は日頃みかけるものとは違い、どこがドライなんだ？ とびっくりされるかもしれません。他にランチカレー④、スープカレー⑤などもあります。



L の少し手前にあるのがカフェテラス K で、ここにはインド北西部のカシミール地方にちなんだ？ 見るからに辛そうなカシミールカレー⑥。事実 HOT です。カシミール地方ではこんなカレーなんだと思っていたのですが、実はカシミール地方のカレーとは直接関係はなく、イメージからつけられた名前だそうです。デザートにスイーツもどうぞ。



グリーンカレー⑦は梨狩りとかで有名な須金の古民家カフェ Y でいただけます。唐辛子農家がされています。グリーンカレーの元、ココナツミルクも買えますので御自宅でも如何でしょうか。



少し変わり種は岩国駅東口を南に行き今津川の手前にある GG カレー。金沢カレー⑧です。甘めのルーでキャベツと一緒にかき込むのが私は好きです。



市内でもう一軒、周東町の国道 2 号沿いドライブイン A。写真はカツカレー⑨ですが、これで普通盛りですのでご注意ください。何か懐かしい、時々思いだして食べたくなる味かもしれません。売り切れで食べられなかったことが何度かあります。



遠くなりますが他では見ることもないカレーを最後にもう一つ。三原・道の駅みはら神明の里のたご天カレー⑩です。ハサミがついてきます。最初見た目からどうかと思いましたが、食べてみると結構いけます。写真左上はたご焼き。たご天カレーは一日 8 食限りなのでなかなか食べることが出来ませんが機会あれば一度ご賞味下さい。

たご焼きもカレーも、きっとリピートしたくなります。まだ他にもありますが、またの機会に、



新任医師の紹介 *New doctors*

令和8年6月に着任した医師を紹介します。



麻酔科医師 大倉 靖子 (おおくら やすこ)

専門領域：麻酔

メッセージ：

安全な麻酔はもちろんですが、術後に痛みや吐き気がないような麻酔を行っていきます。



“旧医療センター跡地”に地域の交流施設誕生

今年4月、黒磯地区の旧岩国医療センター跡地に、福祉と化学が融合した地域の交流施設「いこいと学びの交流テラス」が誕生しました。1階は福祉センター、2階は科学センター、他にも多目的広場やホール、入浴施設などがあり、市民が集う学びと憩いの場となります。災害時には避難所やボランティアの活動拠点となります。



第11回

特定認定看護師の紹介

今回は、クリティカルケア認定看護師を紹介します。

クリティカルケア認定看護師 國信 恵実

クリティカルケア認定看護師になったきっかけ

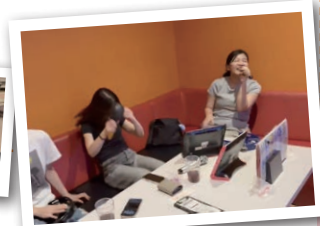
一般病棟から移動してICUに働き始めると、人工呼吸器を装着している患者さんに関わるが増えました。その中でより早く苦痛な人工呼吸器を外してあげたい、その為に特定行為を取得したいと考えるようになりました。認定看護師の先輩方に相談していく中で、特定行為だけでなく認定看護師になることで、より広い視点で患者さんの全体像をとらえ、よりよい看護に繋がれると考えるようになりました。その為、認定看護課程と特定行為の双方の視点を同時に学ぶことができるクリティカルケア認定看護師資格を取得しました。

現在の活動について

主に集中治療室(ICU)で重症患者さんをより良い状態に回復できるよう多職種で協力しながら看護をしています。特に人工呼吸器を装着している患者さんでは早く呼吸器を外せるように特定行為を生かしながら介入しています。自分が学んできたことを他看護師に普段から伝達し、その他に院内の心肺蘇生研修や院内外に向けた人工呼吸器研修の担当も行っています。

～趣味～
カラオケ

幼少期から歌うことが大好きで、カラオケで大きな声で歌うことがストレス発散になっています。一人カラオケで採点をして良い点がとれるかなと挑戦するのも好きです。



岩国看護学校 第59回学校祭のお知らせ

テーマ：「希望の輪」～みんなで作る輝く明日～

学校祭 広報担当

今年度の学校祭では、多くの地域の方々に楽しんでもらえるよう、看護技術体験や手話体験、ゲームや抽選会などをおこないます。また、授産施設の商品やキッチンカーによる食品販売も予定しています。

ご家族やご友人をお誘いあわせいただき、ご来場いただきますことを、学生・教職員一同心よりお待ちしております。

※オープンスクールも同時開催いたします。当日参加も可能です。ご希望の方は、来校時にお声掛けください。



【日時】令和8年10月17日(土) 10:00～15:00

【場所】岩国医療センター附属岩国看護学校
〒740-0037 岩国市愛宕町1丁目3番1号

【TEL】(0827)34-2000





永年勤続表彰を行いました

6月17日(水)10:00より、当院にて
永年勤続表彰を行いました。

国立病院機構に20年勤続された方が12名、30年勤続された方が2名表彰されました。

田中屋院長から表彰者に対して、「時代の変化に対応しつつも、これまで長い時間をかけて培われた経験を活かして、人材育成や病院運営に貢献してください」という言葉が送られました。



七夕の飾りつけ

2階正面玄関ホールにて、7月初めの約2週間七夕の飾りつけをしました。また、3階ロビーにも七夕笹や園児作品の展示を行いました。

外来患者さんやそのご家族など多くの方が短冊に願い事を書き飾ってください、ほっと一息つける場所になりました。(患者サービス向上委員会)



院内コンサート開催

7月14日(火)17:30より、当院正面玄関ホールにて
ミニ・コンサートが開かれました。

医師等による弦楽器&フルート6名の編成で、「アリア・愛をこめて花束を・となりのトトロ(さんぽ)」等、クラシックからJポップ・ジブリアニメの曲など、多彩な選曲の演奏で楽しませていただきました。集まった患者さんや病院スタッフは、心地よい楽器の音色や心あたまる演奏に大変癒されました。

終わる頃には患者さんより「アンコール!」の声が上がりました。

演奏者

第1バイオリン 伊住浩史医師、
第2バイオリン 藤本剛副院長・前田絵璃子臨床検査技師、
ビオラ 矢吹隆行医師、チェロ 田中屋佳音医学生、
フルート 田中屋真智子医師



『ほっとサロン虹』のご案内

がん患者さんやご家族の皆様が病気や暮らしなど気になること、相談したいことなど、お話ができる場です。事前申込み不要ですので、お気軽にご参加ください。(地域医療連携室)

開催日	テーマ	講師
9月18日	がんゲノム医療について学んでみよう	がんゲノム医療外来医師
10月16日	化学療法の副作用対策について学んでみよう	がん化学療法 看護認定看護師

開催日時: 毎月第3金曜日 14:00 ~ 15:00

場 所: 2階患者図書室

対 象: がん患者さんにご家族(院外の方も参加できます)

※急遽、予定が変わる場合がございますので、
当院ホームページにてご確認ください。

岩国医療センターほっとサロン虹 検索

